

昭和59年度晩柑類関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和59年度晩柑類関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、昭和60年10月25日(金)、徳島東急イン(徳島市元町1-24)において、試験場関係者45名、委託関係者35名出席のもとに、

除草剤3薬剤(7点)、生育調節剤17薬剤(43点)について試験成績の報告後、慎重な検討が行なわれた。その判定結果については、次に掲げる通りである。

昭和59年度 晩柑類関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定結果一覧表

1. 除 草 剤

対象果樹 〔品種名〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率(%)	試験実施 場所(樹)	試験の種類〔ねらい、対象雑草〕 処理時期; 散布薬量(製品/a) ; <水量/a>; 処理方法等	新緑 の別 今回 判定	判定理由または内容
〔柑橘類〕	(1) Hoe-866 液 (バスタ)	グルホシネート……18.5	鹿児島. (1)	適用性〔2回散布による多年生雑草の根絶効果の検討、ススキ・チガヤ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシ・ギンギン・ヒルガオ等多年生雑草〕 雑草生育初～中期および再生後の生育初～中期(2回散布) ; 75ml→100ml, 100ml→75ml, 100ml→100ml<10~15l>; 全面茎葉処理.	継続 緑	〔判定済〕 ・処理時期、薬量、草種.
〔柑橘類〕	(2) KH-212 粒 (カッター)	DBN ……3, 4, 4 DCMU ……2, 2, 3	果試(安芸津), 静岡(伊豆), 和歌山, 山口(萩), 福岡(園研). (5)	適用性〔秋冬期処理による清耕維持効果持続期間の各製剤ごとの比較, 一年生雑草およびヨモギ・タンポポ・ヤブガラシ・ギンギン等多年生雑草〕 11月, 雑草発生前～始期; 900g; 土壌処理.	継続 実・緑	実: 〔秋冬期処理, 清耕維持; 一年生雑草およびヨモギ・タンポポ・ギンギン・ヤブガラシ等多年生広葉雑草〕 11月, 雑草発生前～始期, 900g, 土壌処理. 緑: 薬量と草種, 残効期間.
〔柑橘類〕 〈自主試験〉	(3) diuron・terbacil 水和 (ゾーバー) 〔丸和〕	ターバシル ……40 DCMU ……39	静岡(伊豆). (1)			

II. 生育調節剤

対象果樹 〔品種名〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率 (%)	試験実施 場所 (数)	試験の種類 [ねらい, 対象雑草] 処理時期; 散布薬量(製品/a) ; <水量/a>; 処理方法等	新緑 の別 今回 判定	判定理由または内容
〔伊予柑〕	(1) AXF-1072 液 (エラミカ) 〔ユニオン カーバイド〕	ジクロロプロ ップ……………10	山口(大島), 愛媛, 佐賀, 大分. (4)	適用性 [冬期収穫前落果防止(ヘ タ落ち防止)] 収穫10~20日前; 200, 300ppm ; 立木全面散布.	継続 実・ 継	実: [伊予柑; ヘタ落ち 防止] 収穫10~20日前, 200, ~300ppm, 立木全面散 布. 継: 処理時期, 濃度, 方 法.
〔ネーブル〕	(2) 同 上	同 上	静岡, 広島 (柑橋), 福 岡(園研), 熊本. (4) <自主>宮 崎(亜熱帯).	適用性 [冬期収穫前落果防止(ヘ タ落ち防止)] 収穫10~20日前; 200, 300ppm ; 立木全面散布.	継続 実・ 継	実: [ネーブル; ヘタ落 ち防止] 収穫10~20日前, 200 ~300ppm, 立木全面散 布. 継: 処理時期, 濃度.
〔甘夏柑他〕	(3) 同 上	同 上	静岡(伊豆), 三重(紀南), 和歌山, 山 口(萩), 高 知, 宮崎(亜 熱帯). (6) <自主>福 岡(園研), 熊本.	適用性 [冬期収穫前落果防止(ヘ タ落ち防止)] 11月下旬; 200, 300ppm; 立木 全面散布.	継続 実・ 継	実: [夏ミカン; 冬期落 果防止およびヘタ落ち 防止] 11月下旬~収穫20日前, 200~300ppm, 立木全 面散布. 〔河内晩柑・日向夏; 冬期落果防止] 11月下旬~収穫10日前, 200~300ppm, 立木全 面散布. 継: 処理時期, 濃度, 回 数および八朔等の他樹 種.
〔甘夏柑〕	(4) GR-58 乳 (マデック) 〔カネショウ〕	MCPB ……………20	和歌山, 福 岡(園研), 熊本, 大分 (津久見). (4)	適用性 [収穫前落果防止(ヘタ 落ち防止)] 収穫30, 20日前; (5000), 4000, 3000倍液; 立木全面散 布.	継続 実・ 継	実: [夏ミカン; ヘタ落 ち防止] 収穫30~20日前; 4000 ~3000倍, 立木全面散 布. 継: 冬期落果防止効果.
〔ネーブル〕	(5) 同 上	同 上	静岡, 香川 (府中), 佐 賀. (3) <自主>山 口(大島), 熊本.	適用性 [ヘタ落ち防止] 収穫30, 20日前; (5000), 4000, 3000倍液; 立木全面散布.	継続 実・ 継	実: [ネーブル; ヘタ落 ち防止] 収穫30~20日前; 4000 ~3000倍, 立木全面散 布. 継: 処理時期, 濃度およ び品質への影響.
〔八 朔〕	(6) 同 上	同 上	広島(柑橋), 愛媛. (2)	適用性 [収穫前落果防止] 収穫 30, 20 日前; (5000), 4000, 3000倍液; 立木全面散布.	新規 継	・処理時期, 濃度.

対象果樹 〔品種名〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率 (%)	試験実施 場所 (%)	試験の種類〔ねらい, 対象雑草〕 処理時期; 散布薬量(製品/a) ; <水量/a>; 処理方法等	新規 の別 今回 判定	判定理由または内容
〔日向夏〕	(7) GR-58 乳 (マデック) 〔カネショウ〕	MCPB ……………20	福岡(園研). (1) <自主>静岡 (伊豆).	適用性〔収穫前落果防止〕 11, 12, 1, 2, (3)月, 月別散布; (5000), 4000, 3000 倍液; 立木全面散布.	新規 継	・処理時期, 濃度, 回数.
〔河内晩柑〕	(8) 同 上	同 上	熊本. (1)	適用性〔収穫前落果防止〕 11月下旬, 1月上旬; 4000, 3000倍液; 立木全面散布.	新規 実・ 継	実: 〔河内晩柑; 収穫前 落果防止〕 11月下旬~1月上旬, 2 回, 3000倍, 立木全面 散布. 継: 時期, 濃度, 回数.
〔伊予柑〕 <自主試験>	(9) 同 上	同 上	和歌山, 愛媛. (2)			
〔極早生温州〕	(10) GA3 水溶 (ジベレリン) 〔日本ジベ〕	ジベレリン ………3.1	愛媛, 福岡 (園研), 佐賀. (3) <自主>山口 (大島).	適用性〔着花抑制およびそれ による隔年結果の防止〕 10月中~下旬, 11月上旬; 25, 50ppm<20~30 l>; 樹別・ 枝別散布.	新規 継	・処理時期, 濃度, 品種.
〔伊予柑〕	(11) 同 上	同 上	静岡(伊豆), 和歌山, 山 口(大島), 愛媛, 熊本, 大分. (6) <自主>山口 (大島).	適用性〔着花抑制およびそれ による隔年結果の防止〕 12月下旬(収穫直後), 1月下 旬; 25, 50ppm<20~30 l>; 樹別・枝別散布.	継続 実・ 継	実: 〔伊予柑; 着花抑制 ・新梢葉発生〕 12月下旬~1月下旬, 25~50ppm, 立木全面 散布または部分散布. 継: 処理時期, 濃度, 処 理方法.
〔ネーブル〕 <自主試験>	(12) 同 上	同 上	山口(大島). (1)			
〔柑橘類苗木〕	(13) 改良C-MH 液 (エルノー) 〔ヒドラジン〕	マレイン酸ヒ ドラジドコリ ン塩……………39	愛知(蒲郡), 福岡(園研). (2)	適用性〔耐寒性を保持した優良 苗の育成〕 秋季; 150~100倍液; 立木全 面散布.	新規 継	・試験年次不足. (処理時期, 濃度)
〔ネーブル〕 <自主試験>	(14) 同 上	同 上	福岡(園研). (1)			
〔温州みかん〕 <自主試験>	(15) 同 上	同 上	鹿児島. (1)			
〔伊予柑〕	(16) SMF-1 液 (神協液肥1号)	海藻エキス ……………90 リン酸カリ ……………10	愛媛. (1)	適用性〔品質向上〕 10月上旬・下旬, 10月下旬・ 11月中旬, 10月上旬・下旬・ 11月中旬; 300倍液<40 l>;	新規 継	〔判定済〕 ・試験年次不足.

対象果樹 〔品種名〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率(%)	試験実施 場所(数)	試験の種類〔ねらい、対象雑草〕 処理時期; 散布薬量(製品/a) ; <水量/a>; 処理方法等	新継 の別 今回 判定	判定理由または内容
〔伊予柑〕 つづき	〔神協産業〕			立木全面散布.		
〔柑橘類〕	(17) ethych- lozate 乳 (フィガロン) 〔日産化学〕	エチクロゼー ト……………20	和歌山(紀 北). (1) <自主>山 口(大島).	実用化〔中晩柑類の品質向上、 熟期促進〕 *詳細は試験成績集録参照.	継続	

植 調 協 会 だ よ り

成績検討会

日時：昭和61年1月31日(金) 10:00～15:00

場所：法華クラブ弘前店（青森県弘前市土

手町126, 電話 0172-34-3811）

◎ 会議開催日程のお知らせ

・昭和60年度リンゴ用除草剤・生育調節剤試験

編 集 後 記

最近のドル安騒動は世界各国に波紋を及ぼし、わが国も円の急騰を招き、かつてドル稼ぎの花形であった輸出産業に影響を及ぼしている。これで、日米間の貿易摩擦が解消されれば幸いであるが、外国の農産物が安価で輸入されるということは、わが国農産物価格の下落に拍車をかけるということになる。しかしながら、1億2千万弱の人口で消費する農産物には限界があり、今後の消費の拡大を望むことには無理がある。農産物の供給が過剰となれば、農産物価格の下落を招くことは必至である。このような農業事情のもとでは、農家の生産意欲を減退させ、農業生産を安定させることは無理である。とすれば、これ以上の円高誘導策は、わが国の経済を困乱させることになる。円高のために、企業の利益率が極端に悪化し、法人税の見込額が大幅に狂い、財政にも大きな影響を及ぼしている。何れにせよ、予想し得ない急激な円高に、わが国の産業界が対応しきれなかったのは事実であ

る。大企業には、円高による減益を吸収できる地盤があるが、零細な農業にはそれがない。かつて、曲がりなりにも、円安の影響と保護政策のとられてきた農業は、今回、円高の直撃を受け、丸裸になったのも同然で、打つ術がない。農業から他産業に移ろうとしても、同様な経済事情のもとではそれもならず、ただ、土にしがみついて、円高の火の粉を払いのけるしか、術はないのだろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)832-4188(代)

昭和60年12月発行

植調第19巻第9号

定価400円(送料170円)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)833-1821番(代)